伊豆賛歌

豊かな自然いつまでも

日本銀行前総裁　速水　優

熱川の山の手にあるささやかなマンションを手に入れてから四半世紀になる。ちょうど、私が日本銀行の外国担当の役員となり、毎月一回は定期的に開かれる欧州の国際会議に出席し、とんぼ返りをしなければならなかった。時差や疲れを癒やすと同時に、充電をしながら考えたり、ものを書いたりするのにこのセカンドハウスは役に立った。

海と山が近い関西の芦屋で育った私には、ここから見る伊豆の海と天城の山々は素晴らしく、温泉も豊富であることが何よりだった。ここを決めたのは当時このマンションを所有していた私鉄会社の幹部をしていた知人が、温泉のあるマンションということでここを推薦してくれた。私の希望を満たしているし、まだバブル以前であったから値段も手ごろであった。直前にあった東伊豆の大地震の被害もほとんどなく、高台から見る海や島々と山の景色が何よりで、温泉も山の傾斜地で半地下ではあるが、広くきれいな大浴場だった。

当時は金曜日の仕事を終え、家に帰ってから家内と車を運転し、すいた夜道を二時間ぐらいでマンションに着けた。温泉に入り、あと部屋に戻って窓を開け、ベランダへ出て澄んだ空気を吸い、美しい星空を眺めるだけで生き返った思いがしたものだ。

当時から近くにある「山桃茶屋」の嶋田夫妻と親しくなり、いろいろ世話になった。この家は昔の庄屋の家で、今「作衛門宿」と呼ぶ宿となっている。天城の山のヒノキをふんだんに使った味のある建物で、特にお蔵のような二階建ての「なまこ壁」は庭の緑とよく釣り合って美しい。

冬には昔風の囲炉裏を囲んで主人夫妻と世間話をしているだけで、浮世の憂さや仕事の上の苦労を忘れてしまう。その後、民間の企業や財界に出ていたころも大切な取引先の幹部や日本を好きな外国人などを週末に連れてきて、山桃茶屋に泊まってもらい、ゴルフをしたりして喜んでもらった。ナイキのナイト社長夫妻をここにお連れして泊まっていかれたが、大変気に入られ、奥さまがオレゴンに帰られてからご自宅に山桃茶屋の一部をまねして造られたと聞いた。

日銀総裁に戻ってからも、週末には「踊り子」に乗って仕事を熱川に持ち込んでマスコミ等の来訪を避けて気分転換ができ、ゆっくりと考え事をすることができた。また、私は若いころから日曜日には教会の礼拝に出席することにしていたので、金土と二泊して日曜の朝早く帰って礼拝に出席したこともあった。

私が熱川に来るようになってから、マンションや別荘がうんと増え、旧来の温泉街という感じは薄らいできている。しかし、サラリーマンがセカンドハウスを持って週末をよい空気の中で過ごしたり、引退後の生活を準備することはよいことだと思う。

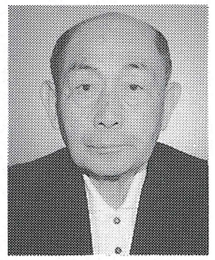
これからは日本経済にとっても観光業がますます大切な産業になっていくと思う。伊豆のように山海の風景がよく、山海の珍味も多く、温泉が豊富なところは、なるべく自然の美しさを残してゆくことが必要だと思う。自然の背景に似つかわしくない派手な建物や産業をおこすことはあまり好ましいこととは思わない。なるべく、豊かな自然や四季の美しさ、温泉や山海の珍味を楽しめる良さを維持していってほしいと思う。

―― 平成十五年五月十七日掲載の静岡新聞より ――

思い出

クロード式窒素工業のこと

かもめ工業株式会社　代表取締役会長
武岡　輝彦



一、クロード式窒素工業のこと

私の父忠夫（神戸高商第十回卒業）がクロード式窒素工業の下関彦島にあった工場長になったのは、大正十二年か十三年であったと思う。彦島の工場長社宅は立派なもので敷地は約千坪位あった。庭には大きな松木や、はまゆうが多数生えて居り、庭の隅には艇庫があり、父のスカール（当時は珍しかった）と私のボートが入って居た。私は大正十四年に彦島の小学校に入学して遠い道を歩いて通った。春や夏にはボートを漕ぎ出して、磯から磯へと移動して遊んだ。

クロードの工場にはフウランス人の技師が三人来て居り、良く私共の社宅に来たが、普通の下駄の二倍位ある大きな下駄をはいて来て居た事を思い出す。

社宅が大きかったので子供心に鈴木商店は大きい立派な会社だなあと思って居た。

又時々工場で爆発事故があって従業員に死傷者が出て大さわぎになって居た。

又工場には連絡用の蒸気船（ランチと言った）があり、下関との往

復に良く乗せてもらった。スピードは他の船より早く、九・五ノットで走る事が出来た。父が時々金子さんから呼出しがあり、金子さんが下関発の急行列車で東上される時に御一緒して食堂車で打合せや御指示を頂いて帰って来た。社宅の前は玄界灘で六連島（ムツレジマ）を近くに眺め景色が良かった。

又工場の従業員が歌って居た歌に「コンプレッサーカツタリコ」という文句があった事も覚えて居る。工場の従業員は千五百人位であったと記憶して居る。

二、鈴木治雄さんのこと

鈴木治雄さんとは神戸の須磨浦小学校の同窓で、鈴木さんは三十七回生、私は三十回生だが、この小学校は私立で、一学年の人数が男女合せて二十名前後だったので全体が家族的で三年違っても交流があった。

鈴木さんのクラスには私の従兄弟の灰谷彬や、私の親友の山口春二のお兄さんの山口義一郎さんや有坂勝さんが居た。

鈴木さんとは良くスキー場で御一緒になった。たしか昭和十年頃だったが神鍋山へスキーに行ったら鈴木さんも来て居られ、運悪く鈴木さんがスキーを折って使えなくなったので、私のスキーに二人乗りしてスキー場から江原の駅まで上って降りた事があった。

昨年六月十九日に東京の友人を三人連れて久しぶりに広野のゴルフ場へ行った時、丁度鈴木さんも来て居られたので食堂で御挨拶をして辰巳会の話が出たので、東京支部の会に之から出席するお約束をした。

又近年鈴木さんが広野でエージシュートを達成された事を知り、こんなに目度たい事はないと思って居る。

何時までもお元気で居て頂きたいと思う。

三、広野ゴルフ倶楽部のこと

広野の開場は昭和七年であったが、開場時から、父は正会員、私は家族会員であった。

当時父は大林組に勤務して居り、クラブハウスは大林組が建て、居ったのでハウスの建築ぶりを見に行ったついでに開場前のコースをラウンドした事があった。

私は昭和十年にアウト五〇イン四一で廻ってカードを提出してハンディ十八をもらった。父が昭和三十七年に亡くなったので後を継いで正会員になった。戦後はハンディ十四で長く続いたがバブル崩壊後、老令も加わって腕が落ち、現在は三十二である。東京のゴルフ友達が「広野へ連れて行ってほしい」と話があれば連れて行く事にして居る。又広野は東京クラブと姉妹コースになったので時々東京クラブへは寄せてもらって居る。平日ならばビジターを三名連れて行けるので之も時々利用させてもらって居る。

以上思いつくまゝにとりとめのない事を述べましたが、東京の辰巳会には極力出席するつもりで居りますので、どうかよろしくお願い致します。

長寿の名称

60 還暦（60年で十干十二支の組み合わせがひと回りすることから）

70 古稀（唐の詩人、杜甫の詩「人生七十古来稀なり」にちなんで）

77 喜寿（喜の略字が七十七と書くことから）

80 傘寿（傘の略字が八十と書くことから）

88 米寿（米の字が八、十、八に分解できることから）

90 卒寿（卒の略字が九十と書くことから）

99 白寿（百の字から一を引くと白になることから）

108 茶寿（茶の字の草冠を二十、その下の部分を米という字に見立てて八十八、合わせると百八になることから）

111 皇寿（皇の字を白、一、十、一に分解。九十九を表す白に一、十、一を足すと百十一になることから）

112 珍寿（百十二歳以上は珍しいため（毎年祝う））

人生は七十歳より

七十歳にてお迎えあるときは
今留守と言え
八十歳にてお迎えあるときは
まだまだ早いと言え
九十歳にてお迎えあるときは
そう急がずともよいと言え
百歳にてお迎えあるときは
時機を見てこちらから
ボツボツ行くと言え

つもりちがい十カ条

高いつもりで低いのが教養
低いつもりで高いのが気位
深いつもりで浅いのが知識
浅いつもりで深いのが欲望
厚いつもりで薄いのが人情
薄いつもりで厚いのが面皮
強いつもりで弱いのが根情
弱いつもりで強いのが自我
多いつもりで少いのが分別
少いつもりで多いのが無駄
そのつもりでがんばりましょう